

国文祭・芸祭が開幕

感染リスク抑えながら107日間

多彩な事業 宮崎の魅力を発信

第35回国民文化祭みやざき2020と第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会(文化庁、県など主催)の閉会式が17日、宮崎市のメディキット県民文化センター演劇ホールで開かれた。式典に続き、最後は宮崎が誇る文化を表現した躍動感あふれる舞台が披露され、7月3日の開幕から107日間の日程を終え、閉幕した。

関係者ら約400人が「都倉俊一文化庁長官が出席した閉会式典では、「文化芸術は安らぎと勇

気、明日への希望を与えてくれる必要不可欠なもの。新型コロナウイルスの感染拡大リスクを抑えながら、文化芸術活動を続けていくことが不可能でないことを示した」と関係者の努力に感謝。

河野俊嗣知事は「大会は幕を閉じるが、本県の文化芸術が新たなステージに向かうスタートになる。大会をきっかけに地域の文化を継承すること

もに、新たな連携の枠組みを生かしながら、文化を通じた魅力発信と共生社会の実現につなげた」と述べ、次期開催県の和歌山県に大会旗を引き継いだ。

続いて行われたクランドフィナーレは「山の幸海の幸いざ神話の源流へ」と題し、日向市美々津に伝わる神武天皇のお船出伝説をモチーフに宮

崎の文化の船出を表現。本県の伝統文化も若者らによる躍動感あふれるパフォーマンスなどが披露され、盛大に締めくくった。

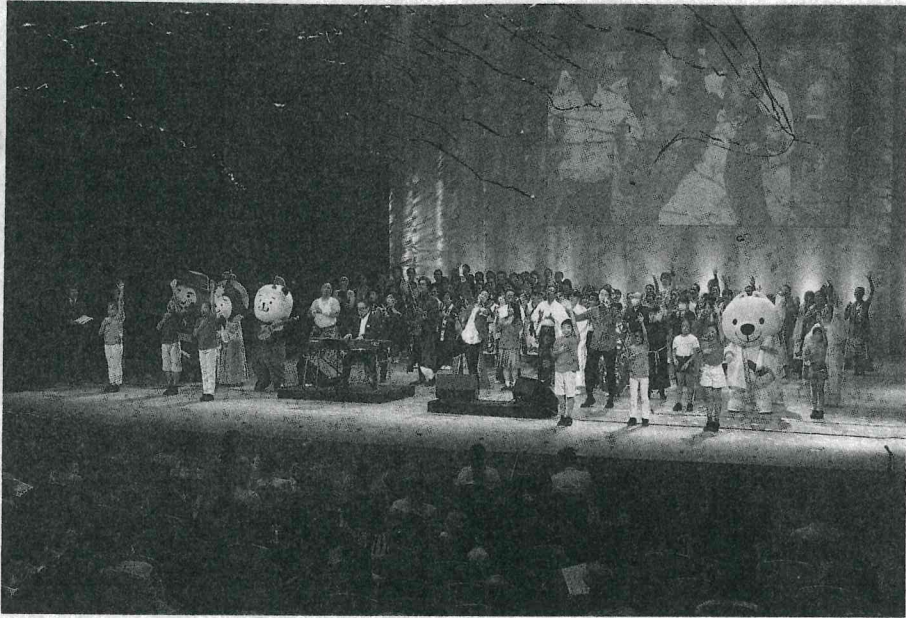
延岡市のダンスグループ「Performing Arts D.O.C」でインストラクターを務める、舞台「タンサー」として出演した河野麻衣さん(門川町出身)は「こ



舞台上で正調刈り切唄を披露する梅野り菜さん

れからも現代の新しい「タ」から、宮崎はもろろん全「ン」や神話を取り入れな「国」世界中の人に宮崎の

神話をダンスで届けた」と話していた。本県初開催となった大会は「山の幸、海の幸、いざ神話の源流へ」をキャッチフレーズに、「記紀・神話・神楽」「宮崎国際音楽祭」「若山牧水」「宮崎の食文化」などフォー



107日間の大会日程を締めくくった閉会式17日、メディキット県民文化センター



2021.10.18